令和元年度

東京都内特別養護老人ホーム入所(居)待機者に関する実態調査 【最終報告】

令和2年2月

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 制度検討委員会

1 はじめに一今回の調査の目的

東京都高齢者福祉施設協議会 制度検討委員会では、平成27年度より3年間にわたり「東京都内特別養護老人ホーム入所(居)待機者に関する実態調査」を実施している。調査結果により、都内の特養の待機者が減少し続けている状況が確認された。特に、市町村部では23区内と比べて減少率が高い。特別養護老人ホーム(以下、特養という)の入所要件が原則要介護3以上となったこと、所在地・近隣地域における施設整備の進展などの影響が明らかになった。

一方、都内の特養の整備率は、23区が1.21%、市町村部は2.07%(平成29年3月)となっており、施設が偏在している状況を示している。全国の1.53%(平成28年10月)と比較すると、23区内では今後も施設整備が推進されると推測する。現在、介護人材不足が深刻化しており、施設整備進展の影響を注視していく必要がある。

特養は介護のみならず、福祉の拠点、雇用の受け皿となっている。すなわち、特養は地域住民にとって、大切な社会資源である。利用者の確保、スムーズな入所、介護人材確保、一定の稼働率の維持など適切な運営が求められている。本調査の目的は、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動に資する資料をつくることである。

[要望・提言に向けた視点]

- (1) 待機者減少の実態把握
- (2) 待機者減少の要因と対策
- (3) 待機者減少と特養稼働率の低下の相関性
- (4) ユニット型特養整備推進の課題
- (5) ショートステイ需要の後退の要因と対策

2 調査の設計

調査対象:東京都高齢者福祉施設協議会会員の特別養護老人ホーム494施設

調査期間:令和元年7月24日~8月30日

調査方法:ウェブサイト上での回答

回収結果:377施設(回収率76.32%)

回答結果の分類:地域特性を考慮するため、回答施設の所在地ごとに以下のとおり分類した。

[23区]23区

【多摩東部】清瀬市・東村山市・東久留米市・西東京市・小平市・武蔵野市・東大和市・武蔵村山市・ 立川市・昭島市・国分寺市・国立市・小金井市・府中市・三鷹市・調布市・狛江市・ 日野市・多摩市・稲城市・町田市

【多摩西部】 奥多摩町・青梅市・羽村市・瑞穂町・檜原村・あきる野市・日の出町・福生市・八王子市

【島しょ】島嶼地域

3 集計結果の概要

(1)基本情報

①回収率

	回答数	地域別割合	送付数	回収率
23区	198	52.52%	270	73.33%
多摩東部	97	25.73%	127	76.38%
多摩西部	78	20.69%	92	84.78%
島しょ	4	1.06%	5	80.00%
合計	377	100.00%	494	76.32%

●全体の回収率が 76.32%となり、前回調査(55.60%)よりも 20.72 ポイント程上昇した。

②施設種別 [問 I-4]

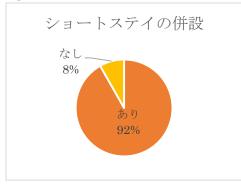
		従来型				ユニット	型	一部ユニット型			
	回答総数	回答数	回答数 に対す る割合 (%)	所在地 別割合 (%)	回答数	回答数 に対す る割合 (%)	所在地 別割合 (%)	回答数	回答数 に対す る割合 (%)	所在地 別割合 (%)	
	375	242	64.53	_	116	30.93	_	17	4.54	_	
23区	196	119	49.17	60.71	72	62.07	36.74	5	29.41	2.55	
多摩東部	97	68	28.10	70.10	24	20.69	24.74	5	29.41	5.16	
多摩西部	78	52	21.49	66.67	20	17.24	25.64	6	35.30	7.69	
島しょ	4	3	1.24	75.00	0	0.00	0.00	1	5.88	25.00	

- ●回答施設の 64.53%が「従来型」であり、ユニット型施設で最も多い地域は 23 区で 62.07%の 結果であった。
- ●地域ごとの「ユニット型」の回収状況(23 区:36.74%、多摩東部:24.74%、多摩西部:25.64%) を比較すると依然として23 区が最も高い。
- ●回答からは、23区における特養の整備が進んでいる状況が伺える。

③ I -5) 特養定員数× I - 6) 退所人数

	平	成 29 年度(N354)	平成 30 年度(N365)			
	特養定員総数	退所人数総数	退所人数総数/特養定員総数	特養定員総数	退所人数総数	退所人数総数/特養定員総数	
全体	32,390	8,260	25.50%	33,068	8,598	26.00%	
23区	15,733	3,964	25.20%	16,341	4,239	25.94%	
多摩東部	8,340	2,129	25.53%	8,410	2,173	25.84%	
多摩西部	8,095	2,118	26.16%	8,095	2,126	26.26%	
島しょ	222	49	22.07%	222	60	27.03%	

④ショートステイの併設[I-7]



	回答数	あり		なし		
	凹合致	回答数	割合	回答数	割合	
全体	377	346	91.78%	31	8.22%	
23区	198	191	96.46%	7	3.54%	
多摩東部	97	88	90.72%	9	9.28%	
多摩西部	78	63	80.77%	15	19.23%	
島しょ	4	4	100.00%	0	0.00%	

⑤ショートステイの定員数

* I - 7) で「あり」と回答した 346 施設のうち、回答のあった 338 施設が母数

	回	定員数		
	回答数	合計	1施設あ たり平均	
全体	338	3,438	10	
23区	189	2,129	11	
多摩東部	87	841	10	
多摩西部	58	425	7	
島しょ	4	43	11	

⑥入所待機者のカウント方法 [I-10]

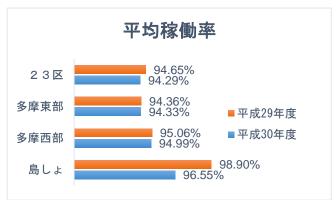
	回答数	申込者の人数と同じ		入所(居)判定基準等 をクリアした入所(居) 可能な方		そ	の他
		回答数	割合	回答数 割合		回答数	割合
全体	374	275	73.53%	83	22.19%	16	4.28%
23区	196	121	61.73%	59	30.10%	16	8.16%
多摩東部	97	85	87.63%	12	12.37%	0	0.00%
多摩西部	77	66	85.71%	11	14.29%	0	0.00%
島しょ	4	3	75.00%	1	25.00%	0	0.00%

●待機者のカウント方法について調査をした結果、全体で 73.53%の施設が申込者人数を待機者としていることが分かった。

(2) 施設運営の状況 [特養]

①稼働率(ショートステイは含まない)[問 I - 6]

一体制学(フェートス)1は日よない [向1								
	平成 29	年度	平成 30	年度				
	回答数	平均	回答数	平均				
全体	353	94.71	364	94.47				
23区	179	94.65	189	94.29				
多摩東部	93	94.36	94	94.33				
多摩西部	77	95.06	77	94.99				
島しょ	4	98.90	4	96.55				



●平成29年度と比較し平成30年度の稼働率は全区域で低下している。

③-1 特養の稼働率が低下した理由 [問Ⅱ-1] (全体集計)

	※複数回答	回答数	%
	全体	270	100.0
1	入所(居)待機者の減少	143	53.0
2	入所(居)に至るまでの期間が延びた	150	55.6
3	介護職員・看護職員の不足	84	31.1
4	入院者・退所者の増加	219	81.1
5	その他	22	8.1

③-2 特養の稼働率が低下した理由 [問Ⅱ-1] (地域別集計)

		23 区		多摩克	東部	多摩西部	
	全体	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1	入所(居)待機者の減少	71	21.52	28	21.70	43	28.48
2	2 入所(居)に至るまでの期間が延びた		25.15	30	23.26	34	22.52
3	3 介護職員・看護職員の不足		15.45	15	11.63	15	9.93
4	4 入院者・退所者の増加		33.33	52	40.31	56	37.09
5	その他	15	4.55	4	3.10	3	1.98

●全ての地域で「入院者・退所者増」が最も多く、次に23区、多摩東部では「入所(居)に至るまでの期間が延びた」が続いている。多摩西部のみ「入院者・退所者増」に次いで「入所(居)待機者の減少」となっており、23区を中心に施設整備が進展していることが主な理由と考える。

③入所(居)待機者の減少理由 [問Ⅱ-2] ※問Ⅱ-1で1を回答した施設

全 体		23 区	多	摩東部	多	摩西部
所在地や近隣地域での特養ホームの増加	65	36.72%	21	26.25%	24	19.84%
所在地や近隣地域での有料老人ホームの増加	37	20.90%	14	17.50%	14	11.57%
所在地や近隣地域でのサービス付き高齢者向け住宅の増加	23	13.00%	6	7.50%	10	8.26%
所在地や近隣地域でのグループホームの増加	18	10.17%	2	2.50%	5	4.13%
小規模多機能居宅介護や 24 時間定期巡回・随時対応型サービスの普及	6	3.39%	3	3.75%	7	5.79%
居宅系サービスの整備進展	7	3.96%	5	6.25%	8	6.61%
所在地以外の(遠方)区市町村からの入所(居)希望者の減少	4	2.26%	10	12.50%	22	18.18%
所在地以外の自治体により確保されているベッド分への入所希望者の減少	2	1.13%	9	11.25%	7	5.79%
利用負担額の増加	4	2.26%	5	6.25%	13	10.74%
医療機関の療養病床および地域包括ケア病棟の整備	6	3.39%	4	5.00%	6	4.96%
その他	5	2.82%	1	1.25%	5	4.13%

●待機者減少理由として「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」が全ての地域で最も多く、次に 23 区と多摩東部は「所在地や近隣地域での有料老人ホームの増加」が挙げられているが、多摩西部 のみ「所在地以外の(遠方)区市町村からの入所(居)希望者の減少」が挙げられていることから稼働率の減少理由と同様に 23 区を中心に施設整備が進展していることが背景にあると考える。

④入所(居)に至るまでの期間が延びた理由 [問Ⅱ-3] ※問Ⅱ-1 で 2 を回答した施設

※複数回答	回答数	%
全体	150	100.0
待機者が減少した	61	40. 7
家族(代理人)との調整に時間がかかる	112	74. 7
入院などにより入所(居)の順番の変更が増えた	34	22. 7
入所(居)元(老健・GHなど)による入所(居)調整が増えた	65	43. 3
施設内の居室調整に時間がかかった	31	20. 7
生活相談員の業務量増加により対応が遅れた	58	38. 7
その他	10	6. 7

●「家族(代理人)との調整に時間がかかる」が 74.7%と最も多く、入所(居)日の調整に必要以上に時間を要していることが分かる。また、「入所(居)元(老健・GHなど)による入所(居)調整 が増えた」も 43.3%となっており、入所(居)には一定の時間を要する結果となった。

⑤退所(居)から新規入所(居)者の契約迄の平均日数 [問Ⅱ-16]

	平成 29	9年度	平成 30 年度		
	回答数	平均	回答数	平均	
全体	337	22. 58	343	21. 56	
23区	173	22. 26	177	21. 53	
多摩東部	88	26. 09	90	23. 65	
多摩西部	72	19. 45	72	19. 19	
島しょ	4	15. 65	4	18. 83	

⑥介護職員・看護職員不足の理由は何ですか [Ⅱ-4] ※問Ⅱ-1で3を回答した施設

※複数回答	回答数	%
全体	84	100.0
新規開設の施設が増え、職員の取り合いが起きた	29	34.5
募集をかけても人が来ず、新規採用ができなかった	75	89.3
採用しても定着せず、退職者が多く出た	53	63.1
その他	7	8.3

⑦介護職員・看護職員の不足による入所(居)の受入れ等への影響[Ⅱ-5] ※問Ⅱ-1で3を回答した施

<u>設</u>

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	回答数	%
全体	84	100.0
ユニットやフロアの一部を閉鎖した	10	11.9
介護職員の人員不足により入所(居)案内を控えた	37	44.0
看護職員の人員不足により入所(居)案内を控えた	9	10.7
特に影響は出ていない	14	16.7
その他	24	28.6

●介護職員、看護職員の人員不足により入所(居)案内を控えている施設が54.7%に及んでいる。

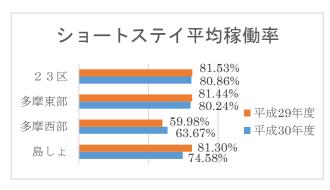
⑧特養稼働率低下に対する対策として、どのような取り組みをしていますか [Ⅱ-6]

	回答数	%
全体	377	100.0
見学者に対して積極的に営業している	193	51.2
事前面接を早めに行っている	248	65.8
ショートステイ利用者へ入所(居)申込を促している	131	34.7
病院と連携して入退院の日にちをあらかじめわかるようにし、空床利用を	120	31.8
効率的に行っている		
入院期間が短くなるよう病院へ働きかけている	109	28.9
医療対応を充実させ入院者がでないようにしている	78	20.7
その他	47	12.5

(3) 施設運営の状況 [ショートステイ]

①専用ベッドのショートステイ稼働率 [問 I-9]

	平成 29	年度	平成 30 年度							
	回答数	平均	回答数	平均						
全体	216	77. 11	227	77. 10						
23区	109	81. 53	119	80. 86						
多摩東部	59	81. 44	58	80. 24						
多摩西部	44	59. 98	46	63. 67						
島しょ	4	81. 30	4	74. 58						



- ●多摩西部の稼働率は改善しているものの、稼働率としては最も低い。
- ●23 区と多摩東部、島しょにおいては平成30年度の方が稼働率は低下している。

②ショートステイの稼働率が低下した理由[問Ⅱ-7]

	※複数回答	回答数	%
	全 体	197	100. 0
1	他在宅サービスの利用が増えた	72	36.5
2	利用者が施設に入所(居)した	147	74.6
3	利用控えによる減少があった	37	18.8
4	その他	67	34.0

③ショートステイ稼働率低下に対する対策として、どのような取り組みをしていますか。[Ⅱ-8]

※複数回答	回答数	%
全 体	377	100.0
見学者に対して積極的に営業している	143	37.9
居宅介護支援事業所に対して積極的に営業している	154	40.8
居宅ケアマネとの関係構築を積極的にしている	224	59.4
リピーターが増えるよう新規利用者や担当ケアマネに働きかけている	210	55.7
リハビリ機能の強化	16	4.2
ホームページなどで空床状況を広く公開している	54	14.3
送迎の範囲を広げている	62	16.4
その他	34	9.0

④開設以来、ショートステイの定員を特養の定員に転換しましたか [Ⅱ-9]

	平成 3	0 年度	参考:平成2	9 年度調査	
	回答数	回答数	%		
全体	345	100.0	239	100.0	
転換したことはない	290	84.06	203	84.94	
転換した	36	10.43	22	9.21	
調整中	3	0.87	2	0.83	
検討中	16	4.64	12	5.02	

●稼働率は低迷しているものの、特養への転換をした、調整中、検討中を合わせても 15.94%と低い。

(4) 待機者の状況

①過去3年における名簿上の入所(居)待機者は何人か[Ⅱ-11]

		回 平成 29 年 3 月 31 日現在 答		月 31 日現在	回答数	平成 30 年 3 月 31 日現在		回答数	平成 31 年 3 月 31 日現在		
		数	合計	1施設あた りの平均	数	合計	1施設あた りの平均	数	合計	1施設あた りの平均	
	従来型	98	31,719	323.66	105	30,639	291.80	109	31,226	286.48	
23区	ユニット型	51	9,980	195.69	58	10,826	186.66	67	11,862	177.04	
	一部ユニット型	5	1,575	315.00	5	1,519	303.80	5	1,496	299.20	
	従来型	64	17,571	274.55	65	19,083	293.58	66	19,572	296.55	
多摩東部	ユニット型	20	4,063	203.15	21	3,833	182.52	23	4,042	175.74	
	一部ユニット型	5	1,034	206.80	5	1,140	228.00	5	1,087	217.40	
	従来型	47	9,808	208.68	50	9,918	198.36	51	10,315	202.25	
多摩西部	ユニット型	18	1,893	105.17	18	1,660	92.22	20	1,659	82.95	
	一部ユニット型	6	587	97.83	6	798	133.00	6	802	133.67	
	従来型	3	15	5.00	3	25	8.33	3	24	8.00	
島しょ	ユニット型	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	
	一部ユニット型	1	18	18.00	1	19	19.00	1	18	18.00	

②施設所在地の自治体以外からの申込者数(平成31年3月31日現在)[Ⅱ-12]

	他の都道原	守県からの	都内の他の自治体か			
	申込者数		らの申込	△者数		
	回答数	平均(人)	回答数	平均(人)		
	355	9	357	40		
23区	184	8	185	14		
多摩東部	91	14	90	51		
多摩西部	76	8	78	91		
島しょ	4	0	4	0		

●多摩西部が「都内の他の自治体からの申し込み者数」が最も多い。

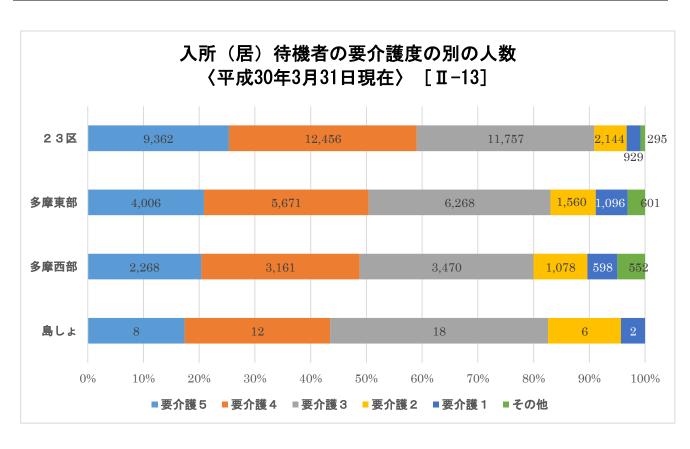
③入所(居)待機者の中で増加傾向がみられるものは何ですか。[Ⅱ-15]

※複数回答	回答数	%
全体	377	100. 0
医療依存度の高い方	282	74. 8
感染症に罹患している方	12	3. 2
成年後見人がいない方	80	21. 2
身元引受人がいない方	142	37. 7
保証人がいない方	68	18. 0
低所得などでユニット型に入所(居)できない方	129	34. 2
その他	39	10. 3

^{●「}医療依存度が高い方」が 74.8%と最も多い。

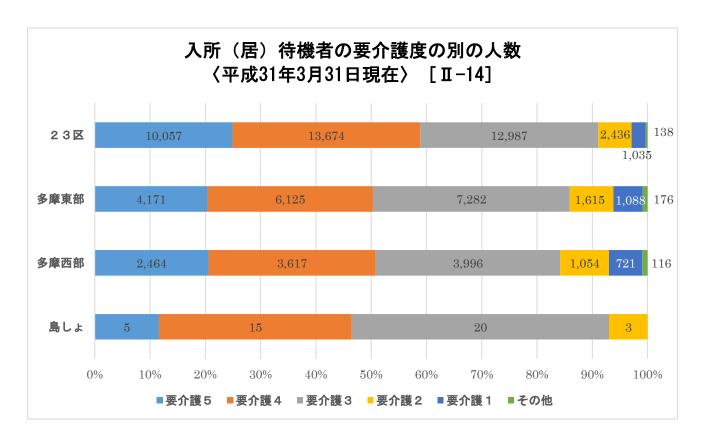
④-1 入所(居)待機者の要介護度別人数(平成30年3月31日現在)[Ⅱ-13]

	要介	·護5	要介護4		要介	要介護3		要介護2		↑護1	その他	
	回答 数	人数	回答数	人数	回答数	人数	回答 数	人数	回答 数	人数	回答 数	人数
23区	169	9,362	170	12,456	168	11,757	162	2,144	161	929	116	295
多摩東部	82	4,006	82	5,671	82	6,268	82	1,560	82	1,096	58	601
多摩西部	71	2,268	72	3,161	72	3,470	71	1,078	70	598	45	552
島しょ	4	8	3	12	4	18	3	6	4	2	3	0



④-2 入所(居)待機者の要介護度別人数(平成31年3月31日現在)[Ⅱ-14]

	要介	↑護5	要介護4		要介護3		要介護2		要介護1		その他	
	回答 数	人数	回答 数	人数	回答 数	人数	回答 数	人数	回答 数	人数	回答 数	人数
23区	178	10,057	178	13,674	178	12,987	172	2,436	169	1,035	114	138
多摩東部	86	4,171	86	6,125	86	7,282	86	1,615	86	1,088	64	176
多摩西部	75	2,464	75	3,617	75	3,996	74	1,054	73	721	51	116
島しょ	3	5	3	15	4	20	3	3	3	0	3	0



⑤待機者に入所(居)の案内をした際に断られた平均人数[Ⅱ-17]

	平成 2	9 年度	平成 30 年度					
	回答数	平均	回答数	平均				
全体	326	11. 14	335	11. 79				
23区	170	12. 81	176	13. 98				
多摩東部	85	9. 34	87	8. 06				
多摩西部	67	9. 75	68	11. 49				
島しょ	4	2. 25	4	1. 75				

⑥-1平成29年度に新規入所した方で、入所(居)時に要介護2以下だった方について、特例入所(居)適用の要件に該当する人数[Ⅱ-20]

	[1]	[2]	[3]	[4]
全体	73	22	73	5
23区	19	3	22	0
多摩東部	6	10	22	0
多摩西部	48	9	29	5
島しょ	0	0	0	0

- [1] 認知症の周辺症状が重度にて在宅生活が困難
- [2] 高齢者虐待が認められ在宅生活が困難
- [3] 一人暮らし又は高齢者世帯のみで在宅生活が困難
- [4] 精神疾患による症状が重度にて在宅生活が困難

⑥-2平成30年度に新規入所した方で、入所(居)時に要介護2以下だった方について、特例入所(居)適用の要件に該当する人数[Ⅱ-21]

	[1]	[2]	[3]	[4]
全体	72	28	65	10
23区	26	10	26	1
多摩東部	10	8	8	1
多摩西部	36	10	31	8
島しょ	0	0	0	0

- [1] 認知症の周辺症状が重度にて在宅生活が困難
- [2] 高齢者虐待が認められ在宅生活が困難
- [3] 一人暮らし又は高齢者世帯のみで在宅生活が困難
- [4] 精神疾患による症状が重度にて在宅生活が困難

⑦平成30年度に新規入所(居)した方で、入所(居)後の認定更新で要介護2以下になった方の人数[Ⅱ -23]

	回答数	人数
全体	350	166
23区	186	82
多摩東部	88	40
多摩西部	72	44
島しょ	4	0

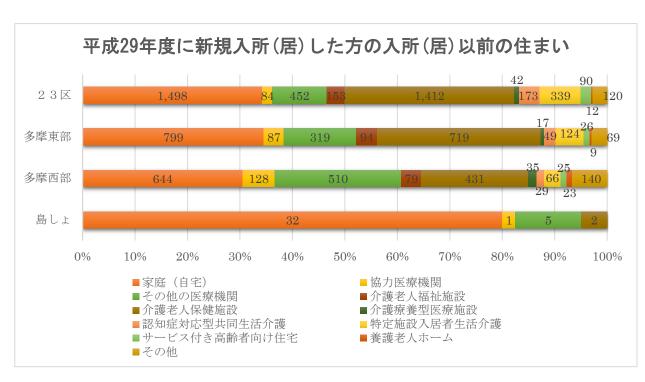
⑧Ⅱ-23のうち、下記の項目に該当する人数 [Ⅱ-24]

	[1]	[2]	[3]	[4]
全体	60	88	38	103
23区	23	44	29	75
多摩東部	4	23	1	5
多摩西部	33	21	8	23
島しょ	0	0	0	0

- [1] 医療機関から入所(居) した方
- [2] 特例入所手続きをして引き続き入所(居)して いる方
- [3] 退所した方
- 〔4〕いずれにも該当しない方

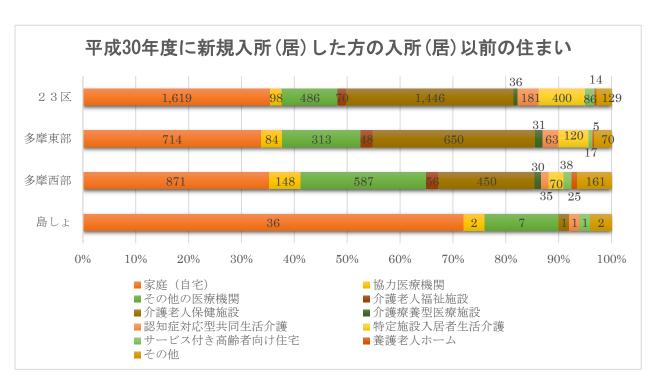
⑨平成29年度に新規入所した方の、入所(居)以前の住まい[Ⅱ-25]

	家庭(自宅)		協力医	療機関		他の 機関		老人 施設		老人 施設	介護療 医療	
	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数
	360	2,973	292	300	345	1,286	287	326	351	2,564	288	94
23区	187	1,498	149	84	178	452	150	153	183	1,412	147	42
多摩東部	93	799	77	87	90	319	77	94	92	719	76	17
多摩西部	76	644	63	128	73	510	57	79	73	431	62	35
島しょ	4	32	3	1	4	5	3	0	3	2	3	0
	_	対応型 活介護	特定施	設入居 5介護		付き高齢 養護老人 け住宅 ホーム			その他		総計	
	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 合計	合計 人数
	299	251	309	529	287	141	279	44	311	329	3,408	8,837
23区	162	173	161	339	148	90	145	12	166	120	1,776	4,375
多摩東部	77	49	82	124	77	26	74	9	74	69	889	2,312
多摩西部	57	29	63	66	59	25	57	23	71	140	711	2,110
島しょ	3	0	3	0	3	0	3	0	0	0	32	40



⑩平成30年度に新規入所した方の、入所(居)以前の住まい[Ⅱ-26]

	家庭(自宅)		協力医	療機関	その 医療	他の 機関	介護 福祉		介護 保健		介護療 医療	
	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数
	367	3,240	300	332	356	1,393	299	174	363	2,547	292	97
23区	193	1,619	156	98	188	486	157	70	193	1,446	152	36
多摩東部	93	714	76	84	90	313	76	48	92	650	78	31
多摩西部	77	871	64	148	74	587	63	56	75	450	59	30
島しょ	4	36	4	2	4	7	3	0	3	1	3	0
	_	E対応型 E活介護	特定施 者生活	設入居 5介護	サービスや 者向!	-	養護 ホ-		その	O他	総	計
	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 数	合計 人数	回答 合計	合計 人数
	311	280	316	590	296	142	280	44	304	362	3,484	9,201
23区	168	181	172	400	157	86	144	14	159	129	1,839	4,565
多摩東部	80	63	76	120	77	17	73	5	74	70	885	2,115
多摩西部	60	35	65	70	59	38	60	25	66	161	722	2,471
島しょ	3	1	3	0	3	1	3	0	5	2	38	50



調査の視点① 待機者減少の実態把握と要因、対策

- ●「待機者減少傾向の理由」として、すべての地域で「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」が最も多く、次に「所在地や近隣地域での有料老人ホームの増加」、「所在地や近隣地域でのサービス付き高齢者住宅の増加」があがった。多摩西部のみ「所在地や近隣地域での特養ホームの増加」に次ぐ理由として「所在地外の(遠方)区市町村からの入所希望者の減少」があり、23区において施設整備が加速することで多摩西部の待機者減少が一層深刻化していることがうかがえる。
- ●待機者の中で増加傾向がみられるものとして、「医療依存度の高い方」が74.8%と最も多く、入所 (居)申込者の中には特別養護老人ホームでの生活が実質的に難しい方が増加傾向にあること、「入 所(居)の案内をした際に断られた」平均人数が1施設11.79名に及んでいることから、必ずしも「入 所申込者=入所(居)待機者」とはならないとことが明らかとなった。

調査の視点② 待機者減少と特養稼働率の低下の相関性

●稼働率の低下理由として「入退院者の増加」が81.1%と最も多く、次いで「入所(居)に至るまでの期間の延び」が55.6%、「入所(居)待機者の減少」が53%の結果となった。入所(居)対象者が原則「要介護度3」以上となり、重度化による入退院の増加と共に退所(居)者が増加している実態が表れている。その影響により、入所(居)手続きに関わる相談員の業務量が増加していることがうかがわれる。

調査の視点③ ユニット型特養整備推進の課題

●入所(居)待機者の中で増加傾向がみられるものとして「低所得などでユニット型に入所(居)できない方」が34.2%に及んでいる。また、「介護・看護職の人員不足」により入所(居)を控えている施設が54.7%となっていることから、人員配置が手厚くなるユニット型特養推進に伴い、低所得者対策並びに人材確保対策が課題であると考えられる。

調査の視点④ ショートステイ需要の後退の要因と対策

■平成29年度、平成30年度による比較では、ショートステイ稼働率は全体的に低下しており、地域ごとの稼働率は以下のとおりである。

23区 : 平成29年度と平成30年度との比較では、△0.67%減少している。

多摩東部:平成29年度と平成30年度との比較では、△1.2%減少している。

多摩西部:平成29年度と平成30年度との比較では、3.69%上昇しているものの、平成30年度の稼

働率は63.67%と都内において最も低い値となっている。

●稼働率低下の主な理由として「施設入所(居)」が74.6%ともっとも多く、次に「他在宅サービスの利用」が36.5%となっている。他の在宅サービス利用を代替えサービスとして利用されている方も一定程度いることから、併設事業として開設しているショートスティ事業については、施設や地域の実状を勘案して、自治体と一緒に柔軟な見直しの必要性があると考えられる。

5 自由記述の分析

(1) 自由記述分析の目的

自由記述を分析する目的は、選択肢式回答では把握できなかった意見や傾向を明らかにすることである。「令和元年度特養入所待機者に関する実態調査」について、施設長の考えを率直に記述してもらい、そこから課題を抽出し、今後に必要な施策を検討する。具体的には、アンケートの自由記述データを計量的な分析方法を用いて検討する。自由記述データを分析する意義については、樋口(2014)が質問紙調査の持つ完全な選択肢を提示することが難しいという困難を補いうる点にあることを指摘している。

(2) 分析の方法

分析には立命館大学の樋口耕一(2014)が開発したテキストマイニング*1用のフリーソフトである「KH Corder」を用いた。文書形式のデータを計量的に分析する必要があると考えたからである。このソフトは大量の文書の中から、分析対象となる抽出された言葉(以下抽出語という)の出現回数を瞬時に示すことができ、共起ネットワーク*2、クラスター分析*3、などの機能により、複雑なデータを分かやすく説明することができる。つまり、抽出語の出現回数、抽出語どうしの関連性などの全体像を量的に提示した上で、回答者の意見や傾向を解釈することができる。

※1 テキストマイニング : 自由記述のような文書形式のデータを定量的な方法で分析すること

※2 共起ネットワーク : 語と語のつながり(共起性・関連性)を視覚化した分析手法。円の大

きさは頻度、線の太さは関連性の強さを表す。

(シードプランニング社 プレスリリース 2016. 12.21)

※3 クラスター分析 : 対象データ間の類似度または距離に基づいて、似ているどうしをいく

つかのグループに分離する手法。大きく分けると階層的クラスター分

析と非階層的クラスター分析がある。

牛澤賢二 (2018)「やってみよう テキスト マイニング」

(3) 倫理的配慮

特別養護老人ホームの事業所ならびに個人を特定されることのないよう個人情報保護を厳守する。

(4) 自由記述結果と考察

1) 設問 28 「各施設における入所待機者の現状に対してどのように考えますか」(回答数 183)

① 頻出語

最も出現頻度が高い語は、「待機」(184個)である。「施設」(160個)、「入所」(146個)、「介護」(85個)、「多い」(84個)、「特養」(80個)、「減少」(57個)、「入居」(57個)、「増える」(55個)、「医療」(53個)と続く。

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
待機	184	難しい	17	声	11
施設	160	依存	16	可能	10
入所	146	行う	16	課題	10
介護	85	高齢	14	区	10
多い	84	従来	14	受ける	10
特養	80	職員	14	退る	10
減少	57	年	14	年々	10
入居	57	老人	14	問題	10
増える	55	在宅	13	行為	9
医療	53	受け入れる	13	床	9
思う	48	出来る	13	断る	9
申し込み	48	場合	13	把握	9
高い	39	他	13	ショートステイ	8
現状	36	連絡	13	近隣	8
必要	34	サービス	12	月	8
希望	31	案内	12	見る	8
増加	31	期間	12	残る	8
傾向	27	人数	12	順位	8
対応	26	地域	12	進む	8
ユニット	22	複数	12	選ぶ	8
人	22	名簿	12	体制	8
生活	22	優先	12	大きい	8
状態	21	有料	12	調整	8
家族	20	ニーズ	11	特に	8
困難	20	加算	11	日常	8
受け入れ	19	減る	11	負担	8
ケース	17	現在	11	平成	8
区内	17	自治体	11	老健	8
申込む	17	整備	11		

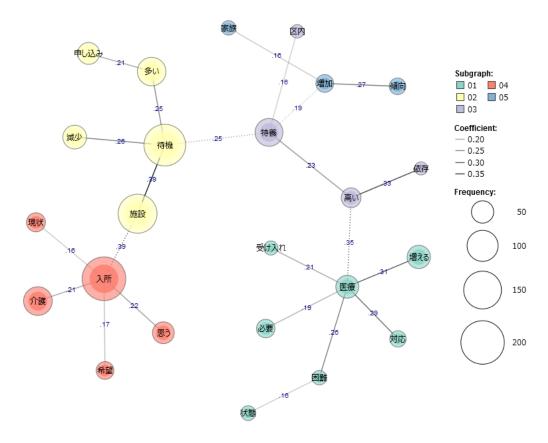


図1 共起ネットワーク

※「円が大きいほど、出現回数が多いことを表している。語と語が線で結ばれているかが共起性 や関連性の有無を表し、線の太さが関連の強さとして表現されている。円の位置や近さは共起 性とは無関係である」(末吉. 2019)「テキストマイニング入門」

語と語を結ぶ線上にある数字は共起性の強弱を表す Jaccard 係数である。0 から1 までの値を取り、関連性が強いほど1 に近づく(樋口 2013)「JH coder 公式掲示板」。

- 0.1は「関連がある」
- 0.2は「強い関連がある」
- 0.3は「とても強い関連がある」

② 共起ネットワークによる考察

「共起ネットワーク 図 1」から語と語のつながり(共起性・関連性)を視覚的に把握する。文章中に多く出てくる単語の出現パターンが似たものを線でつないでいるため視覚的に理解しやすい。自由回答から抽出された異なる語数は 4,722 である。表示される抽出語があまり多くなりすぎると結びつきが散漫になるため描画される共起ネットワークの表示に用いる語を上位 60 個に絞り、抽出語の最少出現数を 15 回以上に設定した。その結果、共起ネットワークから、次の 5 つのテーマがあることが明瞭に捉えられた。

- ① 医療に関するテーマ
- ② 待機者に関するテーマ
- ③ 特養に関するテーマ
- 4 入所に関するテーマ
- ⑤ 増加と減少傾向に関するテーマ

線上に示されている共起性の強弱を表す値である Jaccard 係数は、すべて 0.16 以上であり、「関連がある」ことが示された。さらに、テーマそれぞれにおいても「関連がある」を示す係数でつながっていることが分かる。

2) 5 つのテーマごとの考察

抽出語を中心にして前後の文が示された集計表を用いてテーマごとに考察した。抽出語が どのような文脈で用いられているかを把握しないと本意が分からないからである。巻末、 「キーワードの出現例(抜粋)」を参照。

① 医療に関するテーマ

「医療」は、「依存度」(14個)、「ニーズ」(11個)、「行為」(9個)、「増える」(15個)、「高い」(11個)、「多く」(8個)などの語と一緒に出現している。一方、「待機者」(21個)、「申込者」(3個)、「希望者」(2個)などの語とも一緒に出現している。つまり、「医療依存度」、「医療ニーズ」が高い待機者が増えていることが示されている。具体的に必要な医療処置は、「たん吸引」、「胃ろう」、「人工肛門」、「バルーン」、「点滴」、「経鼻栄養」、「透析」、「尿カテーテル」などである。「現在の看護師の配置人数では対応が困難」、「看護体制などにより受け入れが難しい」、「職員体制が整わず、(受け入れ)上限を決める」、「施設対応ができず断る」などの記述がある。「困難」(20個)は「受け入れ」(9個)、「医療ニーズ」(3個)、「医療依存」(3個)などと一緒に出現している。多くの特養において医療ニーズが高いため待機者の受け入れが困難になっている状況がうかがわれる。その結果、行き場がないまま待機者名簿に残り続けている人が少なくないのではないか。

② 待機者に関するテーマ

「待機」は、「減少」(33個)、「少ない」(9個)、「減る」(5個)などの語と一緒に出現している。待機者が減少している状況は明らかだ。一方、「多い」(9個)、「増加」(4個)などの語とも一緒に出現している。ただし、「複数の医療依存の高い」、「要介護3の」、「対処できない」、「若年層の」、「従来型の」「特養が妥当でない」など何らかの課題を抱えた待機者が増えていることが示されている。「名簿上の待機者は多いが」という記述がある。前述①の実際には特養への入所が困難な人が名簿に残っていることを裏付けている。つまり、待機者名簿は実際の待機者を表していない恐れがある。

③ 特養に関するテーマ

「特養」は、「待機者」(38 個)、「減少(減る、目減り、いない含む)」(20 個)、「医療依存 (ニーズ、行為、処置含む)」(12 個) などの語と一緒に出現している。待機者が減少している状況と医療依存が高い待機者がいることが確認された。「ユニット」(9 個)、「ショートステイ」(5 個) と続く。ユニット型は有料老人ホームと費用面で差が縮まり、「ユニット型施設では、ショートも入所も待機者確保に困っている」という声がある。従来型よりも入居者の確保が厳しい状況だ。金銭的な負担が重いため、低所得者が入所を敬遠するからだろう。

ショートステイについては、「ショートステイ稼働率が壊滅的」、「近隣に特養が増え、ロング ショートステイの利用も難しくなった」などの指摘がある。自治体による施設整備が進んだ結果、利用者の取り合いになっている地域が生まれていることが分かる。待機者が少なくない地域であれば、自治体と相談して稼働率が低いショートステイを特養に転換することの検討も考えられる。

「西多摩ガイド」(6個) は、待機者の減少が続く西多摩地域(※8市町村)の特養54施設が協働で立ち上げた画期的な入所支援共通申込システムである。このガイドを用いて情報提供を行い、23区内から入居者の確保を目指している。「ガイドの効果から申込者数が増加している」、「ガイド経由からの申し込みや問い合わせがある」、「申込者が増加する」など活用の成果が現れている。しかし、今回の実態調査の選択肢式回答Q2では、待機者が減少傾向にある場合の理由として、多摩西部では「所在地以外の(遠方)市区町村からの入所者の減少」が18.18%と他地域よりも多い結果だった。

※あきる野市、青梅市、羽村市、福生市、瑞穂町、奥多摩町、日の出町、檜原村

④ 入所に関するテーマ

「入所」は、「待機者」(63 個)、「減少(減る、半減、半分以下含む)」(29 個)、「申込み」(23 個)、「希望者」(8 個)などの語と一緒に出現している。既述②と同様に待機者が減少している状況が示されている。他方、「要介護3以上」(12 個)、「医療依存度、(ニーズ、対応、行為を含む)が高い」(9 個)、などの記述と一緒に出現している。

2015年の改正介護保険法の施行により、特養の入所は、原則「要介護3以上」になった。制度は要介護3であれば、特養に入所が可能であるが、日常生活継続支援加算により、要介護4、5の入所者を優先する施設が増えており、軽介護度の範囲が要介護3にまで拡大されたともいえる。

今後、軽介護度の高齢者の行き場の確保が課題となることが危惧される。また、要介護 4、5の入所者を優先する結果、医療依存度が高い入所者が増加している。その影響で現場 の職員の負担が重くなっている。日常生活継続支援加算の要件は見直しが必要ではないか。

⑤ 家族の状況と増加傾向に関するテーマ

「家族」は、「費用を抑えたい」、「費用面で施設を選んでいる」、「経済力」、「今後の支払いを危惧」などの記述と一緒に出現している。施設を選択する場合、費用の優先順位が高い家族が増加している状況が示されている。他方、「名簿上の待機者は多いが、家族の状況等により、入所に結び付けられる方は少ない」という指摘のとおり、家族の「高齢化」、「遠

方・海外」、「住んでいる地域」、「抱えている問題」などが入所に影響していることがうかがわれる。

「増加」は、「低所得」、「金銭的にゆとりがない」、「高額料金を払えない」、「年金収入だけ」などの記述と一緒に出現している。経済的に課題を抱える入居者が少なくないことが示されている。他方、「特養」(4個)、「老健」、「有料老人ホーム」、「サービス付き高齢者住宅」、「特定施設」など、多様な施設が「増加した」影響による待機者の減少を指摘する声がある。また、「医療依存の高い」(3個)、「医療行為」など、医療対応の有無が施設入所の条件になっていること示されている。

3) 設問 29 「施設整備が進展していく状況に対してどのように考えていますか」(回答数 163) ① 頻出語

最も出現頻度が高い語は、「施設」(245個)である。「整備」(90個)、「介護」(80個)、「思う」(78個)、「特養」(77個)、「職員」(72個)、「待機」(68個)、「入所」(59個)、「考える」(56個)、「必要」(55個)と続く。

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
施設	245	高齢	13	少ない	9
整備	90	進む	13	新規	9
介護	80	進展	13	人数	9
思う	78	増やす	13	相談	9
特養	77	医療	12	稼働	8
職員	72	環境	12	区内	8
待機	68	経営	12	経済	8
入所	59	行う	12	現在	8
考える	56	人員	12	在宅	8
必要	55	声	12	状態	8
確保	48	箱	12	多く	8
利用	48	ケア	11	福祉	8
人材	43	ニーズ	11	サ	7
増える	43	ベッド	11	依存	7
状況	37	家族	11	課題	7
感じる	33	実際	11	改善	7
不足	32	取り合い	11	既存	7
多い	31	従来	11	期間	7
入居	27	床	11	計画	7
ユニット	23	対応	11	検討	7
難しい	21	把握	11	行政	7
サービス	20	良い	11	国	7
地域	19	含める	10	今	7
出来る	18	疑問	10	受け入れ	7
問題	17	厳しい	10	住	7
運営	15	減少	10	選ぶ	7
生活	15	現場	10	大きい	7
希望	14	新設	10	配置	7
作る	14	数	10	負担	7
質	14	生じる	10	聞く	7
進める	14	可能	9	法人	7
有料	14	困難	9		
ホーム	13	自治体	9		

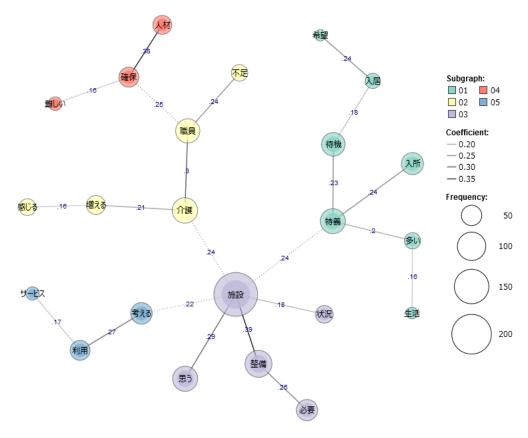


図2 共起ネットワーク

- 0.1は「関連がある」
- 0.2は「強い関連がある」
- 0.3は「とても強い関連がある」

② 共起ネットワークによる考察

自由記述の回答から抽出された異なる語数は 4,560 である。表示される抽出語があまり多くなりすぎると結びつきが散漫になるため描画される共起ネットワークの表示に用いる語を上位 60 個に絞り、抽出語の最少出現数を 14 回以上に設定した。その結果、共起ネットワークから、次の 5 つのテーマがあることが明瞭に捉えられた。

- ① 特養入所待機者に関するテーマ
- ② 介護職員の状況に関するテーマ
- ③ 施設整備に関するテーマ
- ④ 人材確保に関するテーマ
- ⑤ 利用者に関するテーマ

線上に示されている共起性の強弱を表す値である Jaccard 係数は、すべて 0.16 以上であり、「関連がある」ことが示された。さらに、テーマそれぞれにおいても「関連がある」を示す係数でつながっていることが分かる。

4) 5 つのテーマごとの考察

抽出語を中心にして前後の文が示された集計表を用いてテーマごとに考察した。抽出語が どのような文脈で用いられているかを把握しないと本意が分からないからである。巻末、 「キーワードの出現例(抜粋)」を参照。

①特養入所待機者に関するテーマ

「特養」は、「施設整備」(23個)、「待機者」(22個)、「人材不足(介護職、働き手、働く方、人手、人材が集まらない含む)」(11個)、「人材確保(職員、人員、介護人材含む)」(10個)、「減少(いない含む)」(8個)、「ユニット」(6個)、「(職員の)取り合い(奪い合い含む)」(2個)などの語と一緒に出現している。特養が新たに整備されることにより、待機者が減少する一方、介護人材不足に陥っている状況が示されている。その結果、職員、待機者共に取り合いになっているのだろう。「入所」は、「待機(待機者、待機場所含む)」(18個)、「特養」(17個)、「できない、(つながらない、しづらい、調整せざるを得ない含む)」(9個)、「ユニット型」(7個)などと一緒に出現している。「ユニット型」は利用者負担が重く、低所得者は入所しづらい。高齢協の「平成29年度経営分析結果報告書」を基に計算すると、ユニット型は一日当たりの居住費が2,166円である。従来型の883円と比べて1,283円高い。月額では38,490円の差になる。「従来型の必要性を実際、入所相談を受けるときに感じている」という声が上がるのも当然だ。

一方、「待機」は8割ほどが「者」と一緒に用いられている。一緒に出現している語は、「不足(少ない、減含む)」(16個)、「確保実数(実際、実質的な、実含む)」(7個)、「取り合い(奪い合い)」(4個)などである。

待機者名簿に記された待機者数と実際に入所を希望する人数がかい離しているのではないかという指摘が少なくない。現場の実感としては待機者の取り合いになっているのだろう。

②介護職員の状況に関するテーマ

「介護」は半数が「職員」と一緒に用いられている。一緒に出現している語は、「不足」(19個)、「確保」(17個)、「困難、(難しい、厳しい。できず含む)」(10個)などである。介護職員不足は明らかだ。「確保」は、9割が「人材(職員、人員、雇用、担い手含む)」と一緒に用いられている。そして、「困難(難しい、困る、問題、できない、追いつかない、ままならない含む)」と一緒に出現している。職員の確保が困難な状況が示されている。令和元年11月の東京労働局による、都内の介護サービスの有効求人倍率は、6.92倍である。ハローワーク渋谷管内では14.56倍、新宿管内では実に16.58倍、飯田橋管内41.86倍、品川管内では実に82.5倍にも上る。全国の介護サービスの3.75倍と比較するとその深刻さがよく分かる。

③施設整備に関するテーマ

「施設」は、「人材確保(介護職員、働き手、働く人、職員、含む)」(91 個)、「整備(開所、新設、作る含む)」(81 個)、「運営困難(経営状況圧迫、経営的に難しい、圧迫、含む)」

(18 個)「進展(増える、開所、増設、進む、行う、含む)」(21 個)などの語と一緒に出現している。一方、「過剰」(5 個)、「乱立」(3 個)、「疑問」(2 個)、「作りすぎ」、「バランスが崩れる」、「整備よりも」、「整っても」、「充足しても」、「増える一方」、「必要性がない」、「大切だが」、「半比例して」、「されているが」、「ばかりが先走り」、「もっと配慮」など否定的な記述と一緒に出現している。施設整備が「進展」した結果、人材確保が追いつかず、運営が困難になっている状況が示されている。

本調査では、特養の稼働率が低下している理由は、「入院者・退所者」の増加が一番多く、81.1%に上る。「入所に至るまでの期間が延びた」(55.6%)、「入所待機者の減少」(53%)、「介護・看護職員の不足」(31.1%)と続く。利用者が退所後、次の利用者の入所までの期間が延びている理由が「入所待機者の減少」と「介護・看護職員の不足」によるものであることを裏付けている。

④人材確保に関するテーマ

「確保」は、9割以上が「人材」(44個)と一緒に出現している。「施設整備」(29個)、「困難(問題、困る、できない、追いつかないを含む)」(26個)と続く。「施設整備」は「増える(増設、進展、進む、増加、新規含む)」(20個)と一緒に用いられている。前述の③と同様に施設整備が進むことにより、人材確保が困難になっている状況を示している。

⑤ 利用者に関するテーマ

「利用」は、9割以上が「者」(45個)と一緒に出現している。「サービス」(10個)、「取り合い(奪い合い含む)」(7個)、「ユニット」(6個)、「ニーズ」(5個)と続く。

「サービス」は「内容」、「質」、「多様化」、「選択」など多様な語と一緒に用いられている。「取り合い」と一緒に用いられている語は、利用者が5個、職員が4個である。利用者、職員共に取り合いになっているのが見て取れる。「入院者・退所者」の増加により特養の稼働率が低下している中(前述)、待機者が減少し、介護・看護職員の不足がそれに追い打ちをかけるという深刻な状況がうかがわれる。

6 自由記述全体の考察

(1) 施設整備の進展について

自由記述全体を通して、入所待機者が減少している一方で施設整備が進展していく状況に疑問を投げかける意見が多い。現場の実感としては、地域に特養をはじめとする施設が増加したため「待機者、職員ともども取り合いになっている」という意見が少なくない。「保険者が考える施設の必要数と実際の待機者数に差が生じている」、「正確な待機者の把握と適正な施設整備をお願いしたい」、「近い将来高齢者が減少していくことも考慮した施設整備が必要」などの意見があった。

(2) 介護人材不足について

深刻な介護人材不足とは関係なく施設を増やすことには厳しい指摘がなされている。「施設整備よりも介護職員の人員確保を最優先すべき」、「施設整備も大切だが、担う人材の確保が優先ではないか」、「施設整備に反比例して、働く介護人材が集まらない現状をどのように考えているのか」などの指摘がなされている。地域の実情に合った人材確保対策が進捗しているのを見極めてから施設整備を進めることを望んでいる。

(3) ショートステイについて

本調査では都内のショートステイのベッド数3,438に対して利用率は平均で77%となっている。経営面から「ショートステイのベッド8床を特養へ転換した」という回答があった。空いているショートステイのベッドの有効利用になるだけでなく、特養の待機者を減らすことができる。施設側も利用満足度を高め、リピート率を高めるなどの努力は求められるが、どうしても厳しい場合には、自治体ともよく相談し、特養への転換もやむを得ない手段ではないか。

(4) 待機者の実態把握について

多くの特養において「医療ニーズが高い」、「低所得である」、「介護度が低い」ため待機者の受け入れが困難になっている状況が確認された。その結果、行き場がないまま待機者名簿に残り続けている人が少なくないのではないか。待機者名簿に記された待機者数と実際の入所希望者数がかい離している要因がこの点にあると推測される。あらためて、待機者の実態把握を検討する必要があるだろう。